

大阪湾生き物一斉調査 解説シート

【調査の概要（参加者の方へ）】

- 本調査は指導員が予め定めた範囲で行います。（指導員からの指示があります。）
- 調査範囲において、「調査シート」に記載されている「フジツボ類」、「貝類」、「カニ類」、「多毛類」、「ヨコエビ類」、「植物」、「海藻類」の生き物を探します。みつけたら、その種にチェックを入れます。チェックの入れ方（個体数）については調査シート下段を参照して下さい。なお、「多毛類」、「ヨコエビ類」については、各類の全ての種類を含むものとします。また、種名がわかるものについては、裏面に「多毛類」（ｼﾌﾞﾀｶ）等、記載して下さい。
- 「魚類」については、見かけた種類を「調査シート」下段に記載します。また、リスト以外に観察できた生物名を調査シート（裏面）に記載します。
- 生き物の名前がわからないときは、「解説ブック」をみたり、現地で詳しい人に聞いて下さい。
- その他、調査の方法などについては指導員の指示に従って下さい。

制作者：大阪湾生き物一斉調査プログラム実行委員会

写真提供：①石垣宏 ②内野透 ③大谷洋子 ④唐沢恒夫 ⑤野元彰人 ⑥淀真理 ⑦大谷道夫 ⑧松村勲 ⑨鍋島靖信 ⑩山西良平

どんなフジツボが見つかるかな？

磯の岩には様々なフジツボが付着しています。この中でも、クロフジツボは水の動きが大きくきれいな外海に近い場所に、一方でドロフジツボは真水の影響のある汽水域に生息するなど、それぞれの種がそれぞれに適した環境に生息しています。

どんなフジツボが生息しているかを調べてみましょう。

【調査の方法】

- まずフジツボが付着している岩を探します。
- 岩を見つけたらどの種類のフジツボが付着しているかを確認します。

クロフジツボ（直径3～4cm）

波あたりの強い海岸の中潮帯から低潮帯の岩に群生する大型種。湯いている時は白っぽい。



アカフジツボ（殻径3cm、殻高2cm）

岩や貝殻などにも付着するが、船底や浮きなどに付着することが多い。磯では時々見つかる程度。



タテジマフジツボ（殻径2cm）

内湾から外海まで、港の護岸（潮間帯の中心）などに多い。殻表はなめらかで、暗紫色の縦縞がある。



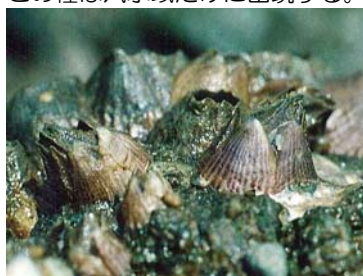
シロスジフジツボ（殻径1～2cm）

内湾の潮間帯の岩や栈橋、岸壁などに付着する。淡水の流入する水域に多い。黒紫色の地に白色の縦筋が入っている。



ドロフジツボ（殻径1.5～2cm）

河口付近（汽水域）や低潮帯の構造物に付着する。タテジマフジツボに似て、縦縞を持つが、この種は汽水域だけに出現する。



アメリカフジツボ（殻径1～3cm）

河口付近（汽水域）や低潮帯の構造物に付着する。楯板に成長線とそれを横切る縦線がある。外来種。



ヨーロッパフジツボ（殻径1～2cm）

内湾や河口付近（汽水域）に生息するほか、低潮帯の構造物に付着する。楯板に成長線があり、背板は三角形。外来種。



どんな貝が見つかるかな？

磯の岩の横や下、砂泥の中など、貝は様々な環境に生息しています。たとえばケガキは水のきれいな外海に近い岩上に、一方でマガキ、ムラサキガイ、ウネナシトマヤガイ、ウスカラシオツガイなどは内湾や河口に生息しています。

どんな貝が生息しているかを調べてみましょう。

【調査の方法】

- 岩を探し、どの種類の貝が付着しているかを確認します。
- 砂や泥の場所があれば掘って貝を探します。

アサリ (殻高 3cm)

淡水の流入する低塩分の内湾干潟に生息する。殻は長楕円形で、細放射肋と輪肋が交差して布目状になっている。



②

ケガキ (殻高 3~5cm)

外洋性で、外からの海水の影響する潮間帯に多い。岬町~加太の岩礁域(高~中潮帯)に見られるが多くない。パイプ状のとげがある。



⑥

マガキ (殻高 5~10cm)

内湾から河口にかけての広い範囲の潮間帯に多く、岩礁、防波堤、岸壁などに密集して付着する。人工護岸にも広く分布する。



③

⑤

ムラサキガイ (殻長 4~6cm)

内湾や河口の防波堤・岸壁などに密集して付着する外来種である。殻は青紫色で、内側の真珠光沢は強くない。別名ムール貝。



③

コウロエンカワヒバリガイ

(殻長 2~3cm)

内湾や河口の護岸、カキ殻等に密集して付着する。体は小さく、黒紫色で光沢がある。外来種。



⑤

④

ウネナシトマヤガイ (殻長 4cm)

内湾の石の間や下に付着する。殻は長四角く、殻表の後ろに紫色の放射帯がある。



⑤

ウスカラシオツガイ (殻長 2~3cm)

1985年に初めて大阪湾で確認された外来種。原産国は不明。殻の形はさまざま。



⑥

イシマキガイ (殻径 2cm)

汽水および淡水に生息し、幼貝は汽水域のみで見られ、成長とともに川をさかのぼる性質がある。



⑥

⑥

タマキビガイ (殻高 1cm)

内湾から外海まで広い範囲の潮間帯上部や石、防潮堤などに付着。隙間などに密集して棲息する。石の表面の藻類などを餌とする。



③

③

クチバガイ (殻長 2cm)

河口域潮間帯の砂~砂礫底に生息する。殻は黄褐色の殻皮に被われる。内面は白色。



⑥

イボニシ (殻高 2~3cm)

内湾から外海まで広い範囲の石や防潮堤の壁面の間に付着して棲息する。肉食性でマガキなどを襲って食べる。

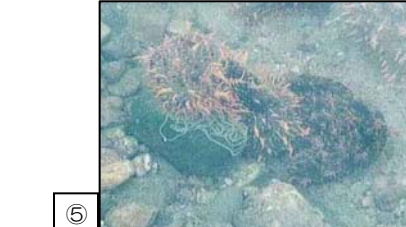


③

③

フレリトゲアメフラシ (体長約 10cm)

砂泥地に生息することが多い。体は大小の突起におおわれ、この突起が樹枝状になることもある。背に瑠璃色の多数の眼点ができる。紫汁を分泌。



⑤

アラレタマキビ (殻高 1cm)

潮間帯上部~飛沫帯の岩礁、護岸、消波ブロック上等に生息し、特に間隙・凹みに集中する。タマキビガイより上の方に多い。



⑥

どんなカニ・ヤドカリが見つかるかな？

海岸には、砂浜、磯の岩間、干潟の砂や泥の中、河口部など、その環境条件の違いに合わせて様々なカニが生息しています。中でも、海岸近くの土手、草むらや田畑に生息し、産卵のため海辺との間を行き来するアカテガニは、背後地に自然が残されている場所にしか見られません。

どんなカニやヤドカリが生息しているかを調べてみましょう。

【調査の方法】

○どの種類のカニやヤドカリが見られるかを確認します。

■ 砂浜に生息するカニ

アカテガニ (甲幅 3cm)

河川の干潮域の水際から離れた所で生活する。幼体は褐色、成体には甲全体が赤褐色の個体もいる。甲の側縁に切れ込みはない。雄はハサミが大きい。



⑥

スナガニ (甲幅 2~2.5cm)

砂浜の満潮線付近に深さ数10cmの穴を掘ってすむ。逃げ足が速い。ハサミ脚の大きさは左右で異なる。



⑥

■ 岩の間や石の下に生息するカニ

ヒライソガニ (甲幅 2.5cm)

砂地をともなった磯の転石下に生息する。イソガニに比べて甲が平坦。個体ごとに色彩や模様は異なる。雄はハサミが大きい。



⑥

イソガニ (甲幅 3cm)

岩の間や、積み重なった石の間に生息する。内湾の奥や河口の近くにも出現する。紫色の斑点があるハサミと縞々の歩脚をもつ。雄はハサミが大きい。



④

ケフサイソガニ (甲幅 2.5cm)

汽水域の転石下に生息する。雄はハサミの又に毛が生えている。メスにはない。雄はハサミが大きい。



⑥

※よく似たタカノケフサイソガニとの見分け方は、解説ブック参照。

■ 干潟に生息するカニ

ハクセンシオマネキ

(甲幅 1.5~2cm)
砂混じりの硬い干潟の中~低潮帯に穴を掘ってすむ。雄は片方のハサミが大きい。甲羅の模様やハサミの形は様々。



⑥

ヤマトオサガニ

(甲幅 3.5~5cm)
柔らかい泥質の干潟に斜めの穴を掘ってすむ。甲は横長の長方形で、眼柄が長い。



⑤

オウギガニ (甲幅 3.5cm)

中~低潮帯の石の下の砂地にすむ。擬死をする。



⑤

■ ヤドカリ

ユビナガホンヤドカリ (体長 2cm)

内湾河口域の潮間帯に多く生息する。ハサミは右側が大きく、外側には小顆粒が多い。歩脚の先端部は前の節より明らかに長い。タマキビガイ、ホソウミニナ等の小型巻貝の死殻を利用する。



⑩

■ 河口部に生息するカニ

アシハラガニ (甲幅 3.5cm)

河口や干潟のヨシ原などに穴を掘ってすむ。生息範囲は広いが、ヨシ原の周辺に多い。雄の眼窩下縁に16~18個の顆粒がある。



⑥

チチュウカイミドリガニ

(甲幅 5~6cm)
内湾の河口域や入江などの低潮帯から潮下帯に生息する。外来種。



⑥

クロベンケイガニ

(甲幅 3cm)
河川感潮域の潮間帯上部~陸域のヨシ原・草地に穴を掘り生息する。ハサミには小さいぼ・顆粒が多く、紫褐色。歩脚には黒く長い剛毛が目立つ。



④

ホンヤドカリ (体長 2cm)

岩礁海岸の潮間帯に多く生息する。ハサミは右側が大きく、外側には小顆粒が多い。歩脚の先端部に白色帯があり目立つ。ムギガイ、イシダタミガイ、クボガイ等の小型巻貝の死殻を利用する。



⑩

どんな植物が見つかるかな？

かつては海岸の砂浜及びその背後地には様々な海浜植物が群生していました。わずかに残された砂浜、再生された砂浜では徐々に自然が回復し、代表的な海浜植物が見られるようになりつつあります。

どんな植物が生育しているかを調べてみましょう。

【調査の方法】

○どの種類の植物が生育しているかを確認します。

ハマダイコン

(高さ 30~70cm、花 2~2.5cm)

海沿いの人里に生育する。栽培のダイコンが野生化したものと考えられるが、根はあまり大きくならない。花は淡紅紫色(白色も多い)で春に咲く。



①

ハマゴウ

(高さ 30~70cm、花 1~1.5cm)

木ではあるが、幹は地表をはう。葉は円形または鈍形でウラが白く、対生する。

花は紫色で

夏に咲く。



①

コウボウムギ

(高さ 10~20cm、穂 4~8cm)

砂浜の海よりに生え、葉にはつやがある。

雄花は淡褐色、雌花は黄緑色で春に咲く。大きな穂が特徴。



①

オカヒジキ

(高さ 10~40cm)

砂浜に生育するが、小石の混ざるやや安定した場所に生育することが多い。葉は棒状の肉質で棘状だが、さほど痛くない。茎も緑色。花は夏から秋にかけて咲くが、非常に小さくて目立たない。



①

ハマボウフウ

(高さ 5~30cm、花 2mm 未満)

砂浜に白色の直根を深く伸ばして生育する。厚くてつやのある複葉が放射状にでる。

小さな白色の密生した花が初夏に咲く。



①

ハマウド

(高さ 1.7m、花 2mm 未満)

海岸近くに生育する。羽状の大きな葉はギラギラと光をはね返して、海辺の植物らしさにあふれる。傷つけると白い乳液がでる。花は白色で春に咲く。



①

どんな海藻が見つかるかな？

磯の岩には潮間帯に生育する海藻が付着しています。中でも、アナアオサは富栄養化した海域で繁茂します。

【調査の方法】

○まず海藻が付着している岩を探します。

○岩を見つけたらどの種類の海藻が付着しているかを確認します。

アナアオサ

(長さ 5~15cm)

潮間帯上部に生育し、内湾では 50cm 以上にもなる。成長すると広い葉体に小さな丸い孔を生じやすい。着床型と浮遊型がある。



⑥

スジアオノリ

(長さ 10~30cm)

潮間帯の岩の上等に生育する。藻体は管状で、全体に枝分かれがみられる。



⑤

オゴノリ

(藻長 30cm)

浅海、潮間帯の砂泥~砂礫泥底の礫、貝殻等に着生する。



⑨